

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |              |     |        |            |
|----------------|--------------|-----|--------|------------|
| ○事業所名          | 児童発達支援 はっぴいち |     |        |            |
| ○保護者評価実施期間     | R7年 12月 27日  |     | ～      | R8年 1月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)       | 43名 | (回答者数) | 25名        |
| ○従業者評価実施期間     | R7年 12月 9日   |     | ～      | R8年 1月 24日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)       | 7名  | (回答者数) | 7名         |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | R8年 2月 2日    |     |        |            |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的にやっている取組等                                                                                      | さらに充実を図るための取組等                                                               |
|---|--------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 当日の様子について丁寧な記録が交付されていること。                  | 事前にどの利用児の記録をどの職員が記入するかあらかじめ検討しておき、職員全体で視点の偏りが起こりにくくように工夫している。                                              | 記録を行う際に必要な子どもの発達に関する知識や行動観察の際に必要な視点について、より高いレベルを求めることができるよう各自の研鑽や研修参加を促していく。 |
| 2 | 困り事の相談や連絡に対して、迅速で丁寧な対応をしていること。             | ご連絡に対しては即時職員間で共有を行い、管理職主導のもとで一貫した対応が取れるように留意している。また、解決したと思われる事案に関してもその後の様子など丁寧に聞き取りが行えるように留意している。          | 今後も潜在的なニーズや困り事に迅速に対応できるよう、ご家庭の現状の把握に努め、就園先や他の福祉サービス等と連携を深めていく。               |
| 3 | 利用児のニーズや課題に即した支援が行われていること。                 | 個別支援計画を支援の軸と据えながら、利用児の現状を複数の視点から検討し、最新の様子をもとに支援内容を決定している。その際は、支援の軸となる指導員を選定し、その指導員を中心に体系的な支援が行えるように留意している。 | 個別支援計画の読み込みと共に、連続して一貫した支援を行うために、個人内変化に注目し、職員間での利用児の現状把握に努める。                 |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること     | 事業所として考えている課題の要因等                                                                                                    | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                                                   |
|---|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 利用児以外のご家族支援（ペアレント・トレーニングやピア・サポートの会など）が手薄であること。 | 昨年度の反省を踏まえ、今年度はご家族支援の目的でご家庭に対して各種研修会や父母の会、子どもの発達に関する外部機関からの情報提供を行った。事業所主催の会についてはノウハウ不足の面があることは否めないため、職員の養成も必要であると考え。 | 周知した研修会や保護者会には一定の需要があるので、事業所主催で行えるように職員の養成を行っていく。                                                                      |
| 2 | 地域との相互理解のもとで地域社会に開かれた事業所であること。                 | 昨年度よりも回数は増加したが、地域の方が事業所の活動を知る機会が現状ではまだ少ないように思われる。日常の事業所運営に比重が傾いているため。                                                | 昨年は近隣住民様に向け、事業所の活動を案内する書面を配布した。今後も定期的に事業所の目的や活動を周知できる案内を配布したり、地域の方が参加できるイベントを開催したりするなど、地域に開かれた事業所運営ができるように活動を検討していきたい。 |
| 3 | 活動内容など事前の予定をご家庭にさらに詳細にお伝えすること。                 | 活動内容については事前に予定表は公開しているが、大まかなジャンル（運動遊び、リズム遊びなど）のみのお伝えでどのような内容（鉄棒、楽器など）かまではお伝えをしていなかったため。                              | 月の活動については基本的に同月内は同じ活動を行うので、行事予定の掲載情報として反映を行う。土曜日の活動に関しても、変更点に関しては迅速にお伝えができるように留意する。                                    |